

第28回坂田記念ジャーナリズム賞 2つの部門で同時受賞

朝日放送テレビ株式会社(本社:大阪市、代表取締役:山本晋也)は、第28回坂田記念ジャーナリズム賞において、ニュース番組「キャスト」を中心に報道したシリーズ企画と、特集をもとに制作したドキュメンタリーが、2つの部門で、受賞しました。

「坂田記念ジャーナリズム賞」は、関西を拠点にした優れた報道活動に贈られる賞で、新聞・放送による報道活動を通じて関西の社会、文化の発展に寄与した故・坂田勝郎氏の遺志を実現するために設立されたものです。

第1部門(スcoop・企画報道) 坂田記念ジャーナリズム賞



受賞の対象となったのは、2017年から、夕方のニュース番組「キャスト」を中心に報道を続けた「シリーズ老障介護」です。高齢の親が障害のある子を支える「老障介護」の現実と、障害者の住まいが足りない問題を軸に、障害者と家族、障害者福祉の現場を密着取材しました。老障介護の苦悩を地道に描き、行政を動かす一因になったと評価されました。

「シリーズ老障介護」:放送期間 2017年11月～2020年9月

報道局「老障介護」取材班 (代表:西村美智子 報道係主任)

第2部門(国際交流・国際貢献報道) 坂田記念ジャーナリズム賞特別賞



この番組は、戦後日本に駐留した米兵と日本人女性間に生まれた子どもたちの苦悩を描いた内容です。黒人米兵を父親に持つ男性、養子縁組でアメリカに渡った女性、祖父が米兵の男性。立場が違う3者が、それぞれが経験した差別と偏見、苦難の歴史を語っています。

「戦争が生んだ子どもたち」:2020年11月23日午前9時55分～11時12分放送
報道局「戦争が生んだ子どもたち」取材班（代表:藤田貴久 報道企画部長）